

令和元年6月20日現在

機関番号：35307

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02370

研究課題名(和文) Missouri州Hannibalの1854年の電子版地図の再構築

研究課題名(英文) The Electronic Reconstruction of the 1854 Map of Hannibal, MO.

研究代表者

和栗 了 (Waguri, Ryo)

就実大学・人文科学部・教授

研究者番号：90230937

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：ミズーリ州ハニバルの1854年版の地図を電子化し、公開し、マーク・トウェインの作品研究と作家研究に活用することが目的で、これは達成された。作家研究と作品研究に関しては、『マーク・トウェインはこう読め』(東京：柏書房、2016年)でこの地図を十分に活用した。ハニバルを舞台にした小説『トム・ソーヤーの冒険』に関する、その恐ろしい側面を指摘し、新しい作品解釈を打ち出した。この研究を通じ、地図から見た文学研究という視座を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

マーク・トウェインの文学世界を、ミズーリ州ハニバルの地図から考察するという研究は今までになかった。少年時代のトウェインの記憶にあったハニバルに最も近いものを描いている1854年出版のハニバルの地図は、極めて貴重な地図である。この研究でトウェインにとって故郷が安全で神話化された町でないことが明らかになった。同時に地図とその周辺の情報を用いた文学研究は、従来の批評よりもっと事実立脚するものであり、斬新な批評方法を確立したと言える。

研究成果の概要(英文)：Reconstructing the 1854 map of Hannibal, Missouri, and publishing it were the goals of this project, which have been accomplished. The book entitled How to Enjoy Mark Twain (Tokyo: Kashiwa-Shobo, 2016) shows several new ways to enjoyable reading of Mark Twain and his works. With the map in the hand, the reader can trace out Tom Sawyer's foot prints clearly and critically, which leads to original reading of The Adventures of Tom Sawyer. Through this project I have got another ground of reading of Mark Twain and his works; Through maps into the literary world.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：マーク・トウェイン ハニバル 地図

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

Mark Twain (1835 年 ~ 1910 年、本名 Samuel Langhorne Clemens) の代表作 *The Adventures of Tom Sawyer* (1876 年) と *Adventures of Huckleberry Finn* (1884 年) の主な舞台である架空の町 St. Petersburg は、1850 年前後の Missouri 州 Hannibal をモデルにしていると考えられている。もちろん、1840 年頃の Hannibal と 1870 年頃の Hannibal とその住民たちに関する情報も複合的に融合され、モデルとして利用されている。

だがそれでも、1853 年 6 月半ばに Hannibal を出奔した Twain が最後に見た Hannibal に最も近いのが Hart & Mapother 社が 1854 年に出版した Hannibal の地図である。この地図は大型のもの、町の中心部だけのものと、二種類出版された。大判の現物は二葉しか現存しておらず、小判の現物は現存が確認されていない。大判の地図の二葉の現物は、どちらも保存状態が悪く、しかも一般研究者が活用できる状態ではない。小判の複写を、Hannibal の歴史研究の第一人者で故人の Roberta Hagood が所有しているだけである。

これを何らかの形で再構築することは上記二作品を理解する基礎資料を提供することであり、従来の作品解釈を大きく変更する可能性を持つ。これらができる限り公開することは Twain 研究と彼の作品研究に大いに資すると予想される。

また、現在ほとんどだれも居住していない Missouri 州 Florida は、Twain が生まれたところで、少年時代に夏休みを過ごした町であり、上記の二作品のもうひとつの舞台となった町である。1840 年代のこの町の理解も不可欠の資料である。この町の 1870 年代の地図は現存するが、1840 年代の地図は、Florida の Mark Twain Birth Place Museum に手書きのものが残るだけである。いずれもその複写を当該応募者が所有しており、これらを公開し、誰でも利用できるようにすることは、学術的に重要である。

一方で、地図から考察する文化・文学研究もひとつの研究手法として確立している。イギリスの Charles Dickens の描いた London の研究はかなり進んでいるし、William Shakespeare の描く London の研究も既にある。前者の例としては、松村昌家の『ディケンズとロンドン』(東京: 研究社、1981 年) があるし、後者の先駆としては、青山誠子の『シェイクスピアとロンドン』(東京: 新潮社、1986 年) がある。これらの先例に倣いながら、Mark Twain の作品世界を理解するために、1853 年の Missouri 州 Hannibal の地図と同州 Florida の地図とを電子版で作成し、公表することが目的である。

これにより、これまであまりなかった、アメリカ文学、特に Mark Twain 研究の領域で、人文地理学と文学の融合を試みることに画期的意味がある。

2. 研究の目的

Mark Twain の文学世界の理解のために、1853 年の Missouri 州 Hannibal の地図と、1840 年頃の同州 Florida の地図とを電子版で作成し、公表することを目的とする。さらに、この地図上にあるものが作品の中でどのような意味があるのかを論ずることも目的である。Hannibal の地図に記された通りや土地所有者の名称、公共の建造物の説明、地形などがどのように作品化されたのか、逆に何が作品化されなかったのかを明らかにし、今までにない Mark Twain 研究の手法を確立するのが目的である。地図から見る文学作品理解という学際的な手法の確立である。

3. 研究の方法

まず、Missouri 州 Hannibal と同州 Florida のことを、地理的にも、文化史的にも、深く調査しながら、これらの町の地図を再構築することである。そしてその結果を国際学会等で発表しながら、より正確で網羅的な研究とする。

具体的には、毎年 Missouri 州 Hannibal と同州 Florida を訪問し、Hannibal の Mark Twain Boyhood Museum の館長 Henry Sweets、Hannibal Free Public Library 図書館館長 Hallie Yundt Silver、Florida の Mark Twain Birth Place Museum 学芸員、Hannibal の歴史愛好家協会 Friends of Historic Hannibal の会員 Jack Klotz などと情報交換をしながら、上記の地図に関する情報を収集し、出版に向けてまとめる。

同時に、*The Adventures of Tom Sawyer*、*Adventures of Huckleberry Finn*、*Tom Sawyer Abroad* (1894 年)、*The Tragedy of Pudd'nhead Wilson & Those Extraordinary Twins* (1894 年)、*Tom Sawyer, Detective* (1896 年) などの出版作品と、生前未出版の作品群、“Huck Finn and Tom Sawyer among the Indians”、“Tom Sawyer’s Conspiracy”、“Schoolhouse Hill”、“Villagers of 1840-3”、“Hellfire Hotchkiss”などの精読を通じて、Hannibal や Florida がどのように描かれているかを検証する。これにより、Twain が川沿いの田舎町にどのような意味を見いだしていたのかを論ずる。田舎町の支配的人々のもつ価値観と、被支配的人々の感情や日常生活などに注目しながら、地図に立脚した文学研究の手法を構築する。そしてその成果を論文や書籍などで公開する。

従来の文学テキストを精読するだけの解釈でもなく、「ポストコロニアリズム」や「文化人類学」などから借用した何らかの理論に立脚する解釈でもなく、Mark Twain の実生活を十分理解したうえでの作品解釈の手法の確立を目指す。

4. 研究成果

拙著『マーク・トウェインはこう読め』(東京:柏書房、2016年)のなかで、Missouri州 Hannibalの1854年出版の、小判の地図と、1840年頃の同州 Floridaの地図を公開した。

さらに、同書では、Twainの父親 John Marshall Clemens (1798年~1847年)と、母親 Jane Lampton Clemens (1803年~1890年)が結婚当初住んだ、1830年前後の Tennessee州 Jamestown周辺の状況も論じた。Twainの両親が Tennessee州から Missouri州まで移住した経路や、父親が Tennessee州で行っていた土地投機の具体的な状況も、地元歴史家 James Buckの助言を受けながら明らかにした。Tennessee州 Jamestownの1830年頃の地図が手に入らなかった(手書きの地図しか存在せず、それ自体がなくなっていたため)のは残念だったが、当時の状況に関する文献の複写を入手した。

一方、こうした Hannibal や Florida や Jamestown に関する知識の集積が、Twainの網羅的自伝の翻訳『マーク・トウェイン 完全なる自伝』(東京:柏書房、2018年全三巻完訳)の編集責任者としての仕事に大いに役立った。そして文学テキストを正確に読みながら、世界中を移動した文学者 Mark Twain を、地図を手にしながらいち早く追いかけるという手法を確立できたと言える。

ただし、電子版の地図のウェブサイトでの公開に関しては、当該研究者の個人のウェブサイト運営していた会社がその営業を2019年3月末で停止したため、現在個人のウェブサイトは閲覧できない。今後、別のインターネット媒体を利用し、公開する。蛇足ながら、1854年の Hannibal の地図と 1840 年頃の Florida の地図の公開は、『マーク・トウェインはこう読め』と『マーク・トウェイン 完全なる自伝』第一巻で公開している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

和栗 了、「1854年の Missouri 州 Hannibal の地図、その再構築の試み」、『就実論叢』(第 43 号、pp.103-116、2014年2月28日)

和栗 了、「ゴシック小説としての Huck Finn における霧」、『就実論叢』(第 44 号、pp.45-55、2015年2月28日)

和栗 了、「マーク・トウェインは泳げたか?」、『関西マーク・トウェイン研究』(第 3 号、pp.27-40、2015年12月18日)

〔学会発表〕(計 5 件)

Ryo WAGURI, "The 1854 Map of Hannibal and Mark Twain" Mark Twain Conference in Hannibal, Missouri (Hannibal, Missouri, 2015年7月23日~25日)

和栗 了、「マーク・トウェインは泳げたか?」、第 5 回岡本アメリカ・イギリス文学研究会、関西 Mark Twain の会、ラフカディオ・ハーン研究会共催研究発表会(島根県松江市、島根大学、2015年9月12日)

和栗 了、「Mark Twain は不倫を肯定したか、あるいは『自伝』の真意」、第 55 回日本アメリカ文学学会全国大会(岡山県岡山市、ノートルダム清心女子大学、2016年10月1日~2日)

和栗 了、「Tom Sawyer の食卓」、関西 Mark Twain の会(島根県松江市、島根大学、2018年9月8日)

Ryo WAGURI, "Tom Sawyer's Table" Mark Twain Conference in Hannibal, Missouri (Hannibal, Missouri, 2019年7月24日~28日)

〔図書〕(計 3 件)

和栗 了監訳。『マーク・トウェイン 完全なる自伝』、第二巻、東京:柏書房、2015年。

和栗 了。『マーク・トウェインはこう読め』、東京:柏書房、2016年。

和栗 了監訳。『マーク・トウェイン 完全なる自伝』、第三巻、東京:柏書房、2018年。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者 なし。

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者 なし。

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。